

経営比較分析表（令和4年度決算）

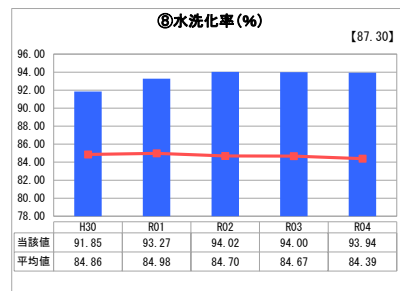
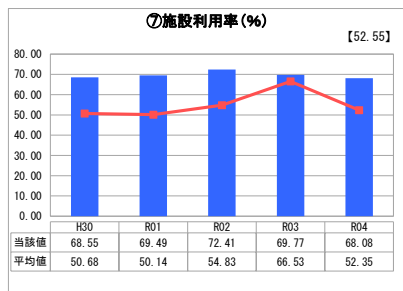
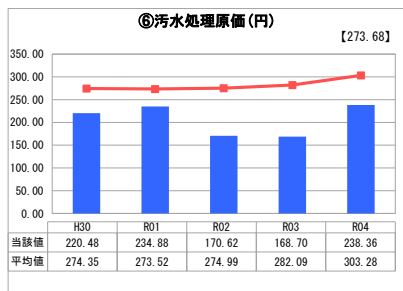
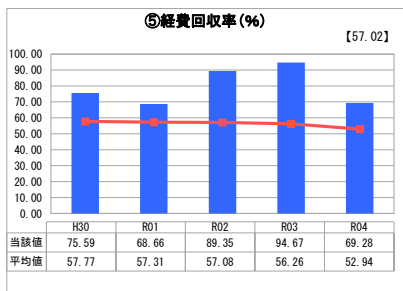
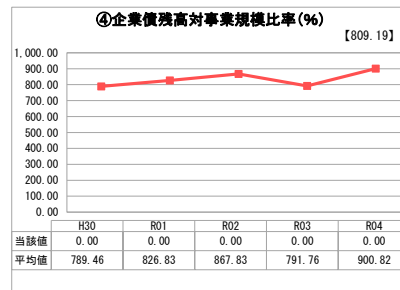
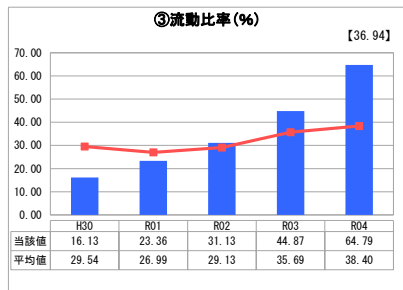
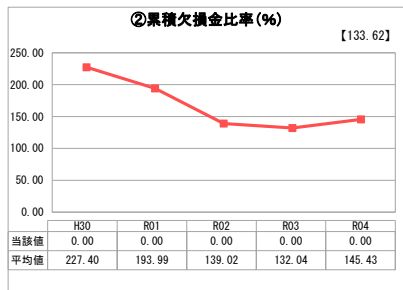
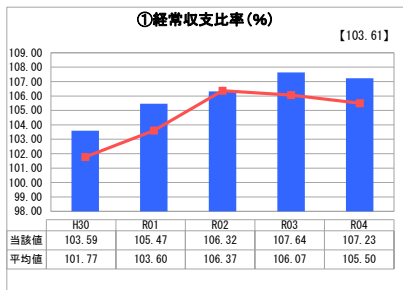
福岡県 筑前町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	79.46	8.85	90.00	3,780

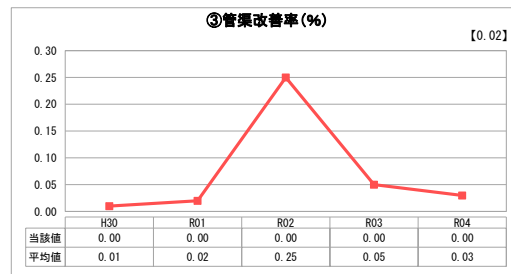
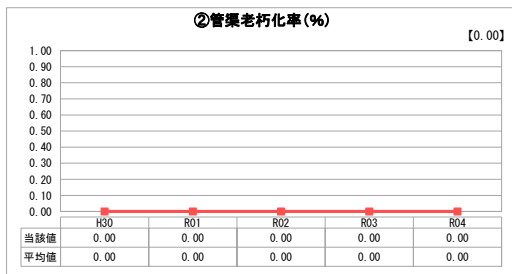
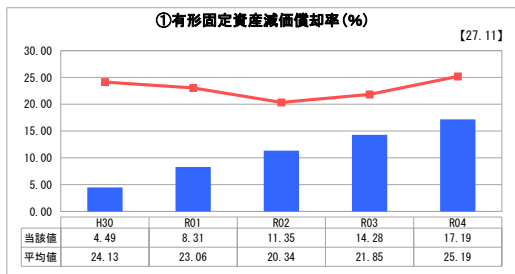
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,233	67.10	450.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,675	1.15	2,326.09

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を超え経営状況は健全である。

②累積欠損金比率
0%であり、引き続き適正な経営を行う。

③流動比率
低率の要因は企業債償還が多いことにあるが元利償還ピークは過ぎており、後は上昇傾向になると予測される。

④企業債残高対事業規模比率
企業債償還を一般会計繰入金で賄っている状況である。計画的な企業債償還や事業更新等経営改善を図っていく必要がある。

⑤経費回収率
類似団体と比較すると高い水準であるが、農業振興地域であり今後大幅な人口増加は見込めないため費用の削減・効率化が求められる。

⑥汚水処理原価
類似団体と比較すると低い水準である。引き続き接続率の向上や維持管理費の削減に努め、効率的な汚水処理を実施する。

⑦施設利用率
類似団体と比較すると高い水準であり、施設は適正規模と判断する。

⑧水洗化率
類似団体と比較すると高い水準である。継続して水洗化率向上を目指す。

2. 老朽化の状況について

2処理区（上高場・栗田）に浄化センターを有している。供用開始は上高場浄化センターが平成6年、栗田浄化センターが平成11年であり、それぞれにおいて、老朽化に伴う機器類の不具合が発生している状況である。管渠については、概ね塩化ビニル管による施工としており、今後しばらくは大規模な改築更新工事は発生しない。しかし既設マンホール蓋等の経年劣化は進行している為、緊急性の高い箇所から随時補修している。

全体総括

浄化センター機器類については、老朽化が進行し、修繕費が大きく経営を圧迫している。施設の維持管理費が増加傾向にあること、大幅な料金増収は見込み難いことから、今後の運営について「広域化・共同化」等検討していく必要がある。

継続して安定した汚水処理サービスの提供のためには引き続き一般会計繰入金に頼らざるを得ない状況であるが、同時に経営の基本原則、独立採算の考えのもと、支出の抑制を図り安定した収入を目指す取り組みを継続する。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。